

2014年8月2日



「SWASH」の設立15周年を機に開いた活動報告会で話す妻友紀子さんは5月、東京都新宿区

## 性風俗で働く女性 抱える悩み

性風俗で働く女性に仕事をめざせるのではなく、社会の偏見をなくし、困っているこの解決を手助けする。そんなモットーで活動しているグループがある。再婚には、女性が周知や行政機関に仕事のことを打ち明けられず、公的支援が届きにくい構造的な問題がある。

6月上旬、東京・新宿 始めたのと尋ねると、歌舞伎町にあるラブホ「都合のよい時間」に仕事。会社員や大学院生を入れる工夫ができたから女性も人の前に、テリからお金困って、というバリーヘルズ(無店舗の派遣型性風俗)で以前働いていた20代の美沙さん(仮名)が現れた。

一般社団法人「GAP」終了後、参加者の一人は意外そうに振り返った。性風俗で働く女性は全国で30万人程度いるといわれる。シングルマザー、既婚者、要介護の返済や生活費のために働く会社員や大学生、立場はさまさまだ。

現役の頃と同じ木下理沙さんは性風俗で、2010年に大阪で風俗店に勤めていた母親が「なぜ風俗の仕事に幼い子どもを自宅に放置し

# 届きにくい公的支援

## 否定せず、困難解決を

社団法人 活動 GAP

絶望させた事件が発生。GAPの海田博一代表理事(31)は、問題意識を持ち、活動を始めた。「子どもを保育園に入りたいが、どうすればいいか」「他の仕事に就きたい」「夫から暴力を受けたい」といった相談を受け、役所や他の支援団体に話をつなぐ。

多くの女性が他人に仕事をのぞかれないことを知られたくないため、悩みを抱え込みがちだ。「風俗で働くに至った事情を何とかしようと、そんな仕事はやめなさい」と言われる。今困っていることに対して「必要がある」と高関さん。

40歳前後になると、客が付きづらくなる。40歳動は女性の人間関係、手直ししないはず」と理解を求めている。

講を受けるケースが少ないため、GAPは30歳前後の人心に対し、将来に備えるよう助言する活動にも力を入れる。

性感染症になりにくい接客マニアル作成や、当事者の交流会、法律相談会などをしているのが、大阪と東京を拠点に15年前から活動する任意団体「SWASH」だ。差別や偏見をなくすことを向より重要視しており、要介護代表は「仕事のことを言々と相談して、当事者の目線と相談を受けてもらえたいが必要だ」と指摘。保健師らを対象に、女性の相談に乗る際の手引書をつくり、研修会も開いている。

性を赤い物にすることを否定しないため、女性を否定しないため、女性団体から批判を受けることもあるが、要さんは「苦痛を和らげよ」といふ活動は女性の人間関係、手直ししないはず」と理解を求めている。

### 一ロケモノ

性風俗の発展は現在、デリバリーヘルズが主導だ。警察白書によると、2013年現在、デリヘルの出店数は約1万8千件で、ソープランド(約1200件)や店舗ヘルズ(約8200件)を併せた上回る。デリヘルは女性の大半は業者から登録されているわけではなく、登録して働く個人事業者の扱い

性労働に関する調査結果を基にしている神戸大の青山薫教授(社会学)は「働ける時間と報酬がある女性は何種類かの職業が難しいが、風俗は口が広い、抵抗感も以前より少なくなり、さまざまな人が働いている。他の仕事と区別する意味はなく、労働者としての権利を保障し、支援の輪を広げることが必要だと訴えている。